



小郡市立小郡中学校

令和6年3月8日

小郡中学校だより

第201号

祝 卒業

校長 船津 聡 哉



学校教育目標 ～夢と志をもって主体的に学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成～

### 巣立っていくみなさんへ【ご卒業 おめでとうございます】



123名の卒業生そつぎょうせいのみなさん、ご卒業 おめでとうございます。  
 私はみなさんに出会え、3年間、一緒に過ごすことができたことを  
 本当にうれしくおもいます。まだ、実感はあまりないかもしれませんが、  
 今日はみなさんたちが義務教育9年間の全課程を終える「晴れの日」  
 です。実にめでたい、晴れ晴れしい日です。



「入学式」の様子R3.4.8

3年前、新入生として名前を呼ばれ、本校の生徒となったあの日。  
 初めて出会った担任の先生…。「頑張るぞ!」「でも、ちょっと不安」  
 など、様々な思いが脳裏をよぎる中で始まった中学校生活だったの  
 ではないでしょうか。中学校の3年間は、人生の中でも自分の生き方  
 の基礎をつくる大事な日々だったことを、卒業する今だからこそ、  
 しっかりと胸に納め、自分の新たな挑戦のスタートとしてほしいと願っています。

新型コロナウイルス感染症に翻弄された中学校生活でしたが、みなさんは、そんな厳しい  
 状況の中でも、物事をいつも前向きにとらえ、できることに精一杯取り組みました。特に3  
 年生となり、集団の力が飛躍的に向上し、随所にその力を発揮してくれました。体育大会、  
 文化発表会などの学校行事や部活動、生徒会活動で自分たちのやるべきことを理解し、生き  
 生きと後輩を導く姿が多くありました。このようなみなさんの姿は、たくましくなったな  
 あ、成長したなあと感じる瞬間でもありました。

最高学年として、これまで受け継いできた仲間とのつながりを意識した活動を、どのよう  
 に後輩たちに伝えていくのか、みなさんには少なからず不安や重圧もあったことでしょう。  
 しかし、みなさんの姿は下級生への無言の教訓となり、『仲間づくり』を合言葉にした人権  
 文化に満ちあふれた学校づくりは、下級生へと受け継がれるものと確信しています。

保護者をはじめ家族の方々から、時には励まされ、時には叱られ、今日の日を迎えました。  
 また、地域のたくさんの方々の方々の励ましや温かいまなざしに支えられていたことも忘れてはい  
 けません。これまでの成長を見守ってくださったすべてのの方々への感謝を忘れないでください。

### 小郡中でのみなさんの足跡【追想】

卒業生の足跡は大きいものがあり、成長できた3年間だったと思  
 います。振り返れば…

戦争の悲惨さ・平和の尊さや日本の歴史・文化を学んだ奈良・  
 京都・広島への修学旅行。新生徒会・実行委員会の初仕事で、学  
 年の団結の一歩にすることができました。



思い出の修学旅行R5.2.15~2.17

そして、3年生になり、生徒会スローガン『雲外想天～仲間と共に やり遂げる～』のもと、  
 特に、学校行事を通してのみなさんの成長は目覚ましいものがありました。

『挑戦 ～we can do it～』をスローガンに取り組んだ体育大会。たくさんの方々の保護者や地

域の方々に見守られる中、与えられた時間・空間の中で一人ひとりが全力を尽くし、笑顔あふれる体育大会となりました。短い練習と準備期間でしたが、オゴ中伝統のブロック演舞(ソーラン節)はこのブロックもアイデアあふれる演技を披露してくれ、強い団結を感じました。



『継唱』をスローガンに取り組んだ文化発表会。ひとつひとつのことが丁寧に取られ、ステージの部も展示の部もみなさんのがんばりと協力で、全員がスローガンを意識した文化発表会となりました。合唱コンクールはさすが3年生と、聴く者の心が震えるような見事な歌声を響かせてくれ、合唱を通して学級のまとまりが生まれることを教えてくれました。これらは、ひとりひとりに力がつき、その力をまとめあげた、まさに集団の高まり、学校の一体感の高まりを示した瞬間でした。すべては、卒業生のみなさんの先導なくしては得られない成果だったと思います。



### 卒業生のみなさんへの最後のメッセージ…〈自分はいったい何をなすべきなのか〉

今年の1月1日に発生した能登半島地震では、多くの方が命を落とし、多くの人々が未だに苦しみ「どう生きるか」を自問しながら生活しています。また、同じ地球上では戦争や紛争によって、今、この瞬間も多くの人々が命を奪われています。

差別、貧困、温暖化など、国内外において解決しなければならない課題が山積しており、さらに、これから来る時代は変化の激しい予測不能の時代で、「答えのない問い」にどう立ち向かうのかが問われています。そのような社会の中で、自分を見失うことなく、生き抜くためには、いったい何をすればよいのか…。「自分はいったい何をなすべきなのか」…この問いは、時を置いて繰り返しみなさんに問いかけてくることなのでしょう。この問いに対する答え…それは、「誰かのために生きる」ということです。私たちは「自分のなすべきこと」を探すとき、「自分のやりたいことや好きなことは何か」から探しがちです。それは間違っただけではありませんが、「自分以外の誰かのために」の考えが抜けてはいけないということです。自分の行うことが「なすべきこと」だとわかるためには、「自分は誰かの役に立っている」と感じる必要があるのです。私たちは、「誰かの役に立っている」と思えたときだけ、自分の価値を実感し、深い満足感と幸福感を得るのです。それは私たち人類のみが「他者と共に生きていく」という本能を持っているからだそうです。私たち人類は、「共に生きる・協働する」という能力を有しているから今日まで生き抜いてきたと多くの研究者は発言していますし、心理学者のアルフレッド・アドラーも「他者への貢献が幸福の最大の鍵」だと結論づけています。「誰かのために生きる」ことは自分の人生を豊かにしてくれます。みなさんには、「私は」という視点ではなく、「私たちは」という視点で物事を考え、「人のために尽くす幸せ」を実践できる人になってほしいと思っています。貢献心を忘れず、笑顔を忘れず、人にはやさしく、自分にはきびしく、より高く、より大きく、より美しく自分を染め上げてくださいね。

#### 【卒業生の保護者のみなさまへ】

お子さまのご卒業 おめでとうございます。

お子さまは立派に成長し、とても頼もしくなりました。今日まで絶えず本校教育へのご理解とご協力を寄せていただきましたことに、深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。





小郡市立小郡中学校 令和6年3月13日

小郡中学校だより 第202号

校長 船津聡哉



学校教育目標 ～夢と志をもって主体的に学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成～

## 123名の卒業生、未来に向かって大きく羽ばたけ！

3月8日(金)に令和5年度卒業式を挙行了しました。

卒業生のみなさんはとても落ち着いた態度で式に臨み、厳粛な雰囲気の中で式が進みました。在校生代表のさんは卒業生と別れる寂しさ、思い出、そしてこれからの活躍に対する期待、今までの感謝の気持ちがこもった送辞を述べてくれました。卒業生代表の

さんからは数々の思い出、先生方や保護者への感謝の気持ち、在校生への期待がこめられた答辞でした。そして、卒業生による感動に満ちあふれたすばらしい合唱「河口」で幕を下ろしてくれました。卒業式が終わった後の3年生の教室はがらんとし、寂しさが募るばかりです。

123名の卒業生のみなさん、未来に向かって大きく羽ばたいてください。



第44回卒業式の様子

## 学校関係者評価を受けて〈評価結果と改善の具体的方策について〉

2月19日(月)に小郡中学校の第4回学校運営協議会〈学校関係者評価委員会(学校関係者評価委員は、学校運営協議会委員が兼ねています)〉を開催し、学校の自己評価をもとに、本年度の教育活動についての評価をいただきました。

評価結果及び改善の具体的方策については裏面にまとめていますのでご覧ください。委員さんからいただいた助言や意見を参考に、今後一層の教育活動の充実を期して取り組んでまいります。なお、評価結果及び改善の具体的方策や生徒アンケート・保護者アンケートの集計結果等につきましては小郡中学校のホームページにも掲載する予定です。今後とも本校の教育活動と子どもたちのさらなる成長のためにご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

### 【学校関係者評価の概要】

**目的:** 学校が実施する自己評価の客観性を高めるとともに、教職員と地域住民・保護者が学校運営の現状と課題について共通理解をもち、協力することにより、教育活動その他の学校運営の改善が適切に行われるようにするため、学校関係者評価委員会を設置。(学校関係者評価委員は学校運営協議会委員が兼ねています)

**評価項目:** 文部科学省の「学校評価ガイドライン」と「小郡市教育大綱」「小郡市教育振興基本計画」の理念・考え方に即した10の「大項目」を小郡市教育委員会が設定。大項目は以下の通り。

大項目のそれぞれに対して、「市内統一項目」(2項目が基本)と「学校独自項目」(1～2項目程度)の小項目を設定する。

- |                 |                     |                |
|-----------------|---------------------|----------------|
| 1 未来に向かう「心」の育成  | 2 生きて働く「知」の育成       | 3 健康で逞しい「体」の育成 |
| 4 地域とともにある学校づくり | 5 ICT活用力の育成         | 6 個に応じた学びの充実   |
| 7 教職員の資質向上の推進   | 8 小中9年間を見通した指導体制の充実 |                |
| 9 働き方改革の推進      | 10 人権・同和教育の啓発推進     |                |

**自己評価の方法:** 設定した小項目について、全教職員で評価を行う。また、生徒と保護者へのアンケートも参考にする。

なお、小項目の平均値から、大項目の評価(ABCD)を行う。

※小項目は4段階で評価(4:できた 3:まあまあできた 2:あまりできていない 1:ほとんどできていない)

大項目の評価の基準は、 $A > 3.5 \geq B > 2.5 \geq C > 1.5 \geq D$

(A:良好 B:概ね良好 C:見直しが必要 D:計画や実施計画を根本から再検討)



# 令和5年度 小郡中学校 学校関係者評価を受けて（評価結果と改善の具体的方策）

## 学校の自己評価

<b>未来に向かう「心」の育成</b>			
大項目評価	3.44	B	
小項目評価	「いただく」「いどむ」「いかす」の過程を大切にした教育活動	いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応の組織的な対応	生徒指導の機能を生かした授業・指導
	3.28	3.59	3.45
	B	A	B

<b>生きて働く「知」の育成</b>			
大項目評価	2.98	B	
小項目評価	「主体的・対話的で深い学び」による授業の日常化	習熟・徹底のための日常的・継続的な取組	各教科等を相互に関連付けた指導
	2.83	3.10	3.00
	B	B	B

<b>健康で逞しい「体」の育成</b>			
大項目評価	3.31	B	
小項目評価	基礎体力向上や運動への意識づくり・態度づくり	子どもたちの「身を守る力」	改善計画の実行
	3.40	3.14	3.40
	B	B	B

<b>地域とともにある学校づくり</b>			
大項目評価	3.14	B	
小項目評価	地域・保護者との連携・教職員情報共有	体験的な学びをカリキュラムに位置づけ	地域行事、ボランティア活動への参加
	3.17	2.97	3.29
	B	B	B

<b>ICT活用力の育成</b>			
大項目評価	3.17	B	
小項目評価	タブレットを活用した学習の実施	計画的な情報モラル教育の実施	キーボードのローマ字打ちでのタイピング60文字/分
	2.87	2.93	4.00
	B	B	A

<b>個に応じた学びの充実</b>			
大項目評価	3.41	B	
小項目評価	「個に応じた学び」の計画的な実施	保護者と教職員、専門機関をつなげた組織的な取組	補助簿等の使用、習熟度別学習の推進
	3.17	4.00	3.07
	B	A	B

<b>教職員の資質向上の推進</b>			
大項目評価	3.21	B	
小項目評価	指導上の課題を協議・共有して、日常授業の改善	組織的な共同体制のもとに研修	組織的な人材育成
	3.14	3.03	3.46
	B	B	B

<b>小中9年間を見通した指導体制の充実</b>			
大項目評価	3.20	B	
小項目評価	小中で共通理解し、統一した授業改善や生徒指導	小学校での学習・生活の状況を踏まえた指導の工夫	中1ギャップの解消
	3.17	3.30	3.14
	B	B	B

<b>働き方改革の推進</b>			
大項目評価	2.76	B	
小項目評価	効率的・協働的な業務遂行、時間外勤務の削減	業務改善の効果的な方策について共通理解	定時退校、年休取得と会議等時間短縮の取組
	2.79	3.08	2.41
	B	B	C

<b>人権・同和教育の啓発推進</b>			
大項目評価	3.38	B	
小項目評価	人権の視点に立った温もりある教育活動	日常的な人権課題について組織的な共有	生徒が自ら解決しようとする力の育成
	3.34	3.34	3.45
	B	B	B

## 評価結果（評価委員会）

○組織的な連携、未然防止の対策などの取組が丁寧に行われている。「いじめやいやなことがある」と答えている生徒への適切な支援を。  
○サポート教室に関わっていらっしゃる先生方に感謝している。学校や家庭だけで対処せず、様々な関係機関をいっつも頼れるような体制が整っていると安心だと思う。

○丁寧な授業に取り組まれている姿に感謝している。関連づけた学習がさらに深く学ぶことにつながっていると感じる。  
○総合的に学力は向上している。生徒ひとりひとりの習熟度に応じた指導をお願いしたい。  
○「主体的に学ぶ」ことはとても大事で、とても難しい。すぐに結果は出ないで継続を。

○「心」も「体」も健康に育つことは、私たちの願いでもある。部活動でも成果が見られるなど、これまでの取組に感謝している。  
○保健体育の授業だけでは体力は向上しない。将来的な「健康」という視点が必要である。  
○「身を守る力」については、自分自身で判断できる力を高める訓練の徹底が必要である。

○地域との情報共有は以前よりできている。  
○地域の行事に中学生も積極的に参加し、交流が深まっていくことに期待している。高齢者にとって、中学生の活動の姿はありがたい。  
○地区懇談会の復活やふるさとグリーン活動の取組で、生徒・保護者が地域の方々と関わるよききっかけになっている。今後も継続を。

○家庭でも取り組みやすいデジタル教材等の開発が進み、全ての子どもたちの学習支援につながればと思う。  
○教職員のスキルを統一しておかないとよい結果は出ないのでは…。これまで大切にしてきた学習のあり方を踏まえつつ、すべての教科でのタブレット活用をお願いしたい。

○生徒たちが「個」を大切に、様々な人々とつながることを意識するなど、安心して生活できる学校になっている。  
○組織的な取組がしっかりと行なわれていることが先々の進路に向けての不安軽減になると思う。  
○学習面で悩んでいる生徒が気軽に相談できるような環境づくりに期待している。

○先生方も多忙な中での資質向上の取組はしっかりとやってもらっていると感じている。健康に留意しながら継続させていきたい。  
○校内研修やミニ研修の実施、専門研修への参加がスキルアップや人材育成につながっていることがわかる。それに要する時間を確保することへの苦労が多々あったのではと感じる。

○小郡校区は一小一中でよく連携がとれていると感じる。小中連携は大切で、学校運営協議会の合同開催もとてもよかったと思う。  
○小中連絡会が充実・発展することで、より丁寧な指導体制や取組ができると思う。  
○人権フォーラムの取組は、中学入学を控えた6年生にとっては、不安解消になると感じる。

○できる限りの努力はされていると感じる。教育の質と子どもたちのケアを考えると、現状では限界を超えているのでは…。  
○時間外勤務の解消や定時退校の確実な実施にどう取り組んでいくのか、具体的な改善策の検討が必要ではないだろうか。  
○地域で協力できることがあれば伝えてほしい。

○先生方はとても熱心に取り組まれている、生徒たちが真剣に考え、学んでいる姿に驚かされている。今後も社会や子どもの実態に応じた人権教育に取り組まれ、保護者や地域にも学ぶ機会をつくっていただきたい。  
○「多様性」を高めるためにも学校内外でいろいろな人と関わり、理解を深めてほしい。

## 改善の具体的方策（学校）

◇生徒の変化を見逃さないように、アンケートやチェックリストなどによる丁寧な実態把握及び教職員間の丁寧な情報共有や校内研修の実施による「誰ひとり取り残さない取組」を継続していく。  
◇生徒会活動の充実させ、生徒間で支えあう力を培う。  
◇家庭の教育力向上をめざした活動をPTAと連携して進める。また、専門機関等とのさらなる連携強化を図る。

◇道徳科、総合的な学習、特別活動等の目的を明確にし、関連性を教職員間で共通理解する時間を確保する。  
◇支援が必要な生徒を明確にし、個に応じた指導の充実を図るとともに生徒の「伸び」や「定着状況」を各種調査等をもとに検証し、授業改善を進めていく。  
◇「めあて」「対話」「振り返り」を重視した学習サイクルの定着を図り、学び続ける力を高めていく。

◇今後もPTAと連携し、取組や啓発を実施していきながら、基本的な生活習慣が身についた生徒の育成に努めていく。特にアンケート結果等を生徒はもちろん、保護者へも丁寧に発信し、課題意識を高めていく。  
◇子どもたちの身を守る力を育むために、警察署や消防署等の関係機関との連携による講話や学習会の継続、地域を巻き込んだ訓練のあり方を検討する。

◇「ふるさとグリーン活動」など、地域とのつながりを深める取組の活性化を図る。  
◇子どもたちへの地域活動参加を積極的に呼びかけ、ふるさとに対する意識の高揚をめざしていく。  
◇学校運営協議会で「熟議」を充実させる。特に、学校や家庭・地域が抱える課題をわかりやすく情報提供し、課題解決に向けた取組の成果の情報発信に努める。

◇今後も継続して、家庭でも取り組みやすいデジタル教材等の開発を各教科で進めていく。  
◇子どもたちのスキルが高まっているのは、取組の成果である。今後も、教職員の活用頻度の差をなくするためにレベル別の研修や授業研究を行うなど、ICT活用については、教職員のスキルアップも含め、日常的に活用できる体制の構築及び創意工夫のある取組を進める。

◇子どもの特性や興味・関心に関する理解を深め、「個別最適化された学び」を実現させる授業づくりに努める。また、少人数授業やTT、補充学習など、丁寧な取組を継続して、個に応じた学びを一層充実させていく。  
◇今後もアンケートの丁寧な分析による支援や家庭訪問をはじめとする教育相談を充実させ、保護者はもちろん生徒との信頼関係の構築をめざす。

◇教職員が前向きで元気が出る研修に努める。その土台となる風通しのよい組織風土づくりをめざしていく。  
◇ミニ研修等の経験豊かな教職員の意見を生かしたOJTによる研修の機会を増やしていく。  
◇個々の教職員のキャリアステージに応じた研修を進めていくが、研修内容を吟味し、見直しをもって計画的に校内研修を実施していく必要がある。

◇小中教職員間で子どもの学力実態や生活状況についての共通理解を図る小中連絡会をさらに充実させ、小中教職員間での課題の捉え方や支援の在り方を整理して、連携・指導体制を強化していく。  
◇今後もPTAや学校運営協議会と連携し、子どもたちを主語にした協議や取組をすすめていく。  
◇人権フォーラム等の取組をさらに充実させていく。

◇時間外勤務の縮減や定時退校日の確実な実施の実現に向け、時間割や会議等を調整していく。また、計画年休の実施にも力を入れていきたい。  
◇校内安全衛生委員会の活性化を図り、働き方改革の推進のための手段・方法・体制等を再構築していく。特に校務や諸教育活動の削減等については、地域への協力依頼も視野に入れ、検討していく。

◇新たな人権課題についてもしっかりと整理し、丁寧に協議を進め、計画的な授業づくりや発信に努める。各教育活動でも人権の視点を明確にして取組をすすめていく。  
◇保護者啓発の授業参観及び学級分会については、マンネリ化することなく、常に工夫しながら充実を図る。  
◇「多様性（自己肯定感）や社会性（人間関係を築く力）」を高めるために効果のある取組を進めていく。



小郡市立小郡中学校 令和6年3月22日

小郡中学校だより 第203号

校長 船津聡哉



学校教育目標 ～夢と志をもって主体的に学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成～

### 〈次年度に向けて〉 『3年生よ 学校の規範になれ!』



時が経つのは早いもので、今日は本年度(令和5年度)の最後の日です。昨年5月に新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが変更になってからは、学校生活も徐々に本来の姿を取り戻していますが、時には神経質になったり、まだまだ気を遣いながらの生活は続いています。そのような中でも、この1年間は、いろいろな場面で協力してとりくんでいる姿が多く見られ、本当によくがんばったと思います。次年度は、体育大会を5月に実施するなど、学校行事の変更等もありますが、生徒のみさんの活躍、そして、さらなる成長を楽しみにしているところです。

さて、3年生が卒業して2週間が経ちますが、卒業式での答辞の中で、  
1, 2年生に次のような言葉を残しました。

在校生のみんなへ。

「先輩」と呼ばれることには、嬉しさと同時に、後輩を引っばっていかねばいけないプレッシャーを感じていました。しかし、みなさんの存在があったからこそ、生徒会活動も、部活動も、最後まで全力でやり抜き、悔いなく終わることができました。

これからの中学校生活の中で、時には壁にぶつかってしまうこともあるかもしれません。そんなときには、一人で抱え込まないでください。周りにはたくさん仲間がいます。どんなことでも仲間と一緒にならばきっと乗り越えられます。支えあって、これからの小郡中学校をみなさんでつくっていきましょう。

〈答辞より一部抜粋〉

4月からは、新入生を迎え「先輩」と呼ばれるようになる1年生、学校生活で常に規範を示す「最上級生」になる2年生。いよいよみなさんが小郡中学校の看板を背負うこととなります。『挨拶、清掃そして合唱の3つを土台に仲間とつながり、仲間と共に成長する』これが先輩たちが大切にしてきたことです。ぜひ、先輩の激励と期待を胸に小郡中学校の歴史と伝統を受け継ぐとともに、発展させていきましょう。

特に、最高学年になる現2年生に課せられる責任は大きいと思います。

言葉では、学校をリードするとか、生徒会の中心になるとか、伝統を引き継ぎ発展させるとか…いろいろなことが言えますが、それを一言で言えば何となるのでしょうか。それは、「3年生よ、学校の規範になれ」に尽きると思います。当然、3年生を支える2年生も学校の規範になることを意識しなければなりません。

私は、今、「模範になれ」ではなく、「規範になれ」と言いました。「模範」と「規範」はちょっと違います。「模範解答」や「模範演技」という言葉もあるように、「模範」は見習うべき具体的な例や姿、手本であるのに対して、「規範」は行動したり判断したりする時の従うべき基準のことを言います。つまり、「かくあるべし(こうあるべき)」を示したものが「規



「**範**」なのです。小郡中学校では、「挨拶」はかくあるべし、「清掃」はかくあるべし、「合唱」はかくあるべし、「授業態度」はかくあるべし、「仲間づくり」はかくあるべし…の正しい基準を新3年生はもちろん、新2年生が示してほしいと願います。人が見ていようが、見ていまいが、正しいことをする…これが「**規範**」なのです。これは、そのまま「人として間違っ  
た行為をしない」ということにもつながるはずで  
す。後輩は、先輩の行動を自らの行動の基準に  
します。こう言えば「**規範**になる」ということは、「**模範**になる」ということよりさらに重い責任が生じるということに気づいてくれると思います。

新しい学年に進級する今、心を新たに  
するチャンスです。「学校の**規範**となる」…この春休みに、その心の準備をしてほしいと思  
います。

明日から春休みになりますが、まずは一日一日を大切に過ごしてください。

そして、4月5日始業式は元気な顔で登校してきてくださいね。

※保護者のみなさま、1年間、本校教育へのご理解とご協力、ありがとうございました。  
次年度もよろしくお願いいたします。

## 『飛躍 ～さらなる一步を～』 …生徒会総会が開催されました

生徒総会が3月15日(金)に行われました。例年ならば、新学期になっての4月に実施していましたが、学校行事の時期等の見直しや変更を行ったために、3月の開催となりました。

生徒総会では、生徒会スローガン、専門委員会の活動目標・活動内容等が審議され、決定されました。また、各学級代表者による意見発表もあり、スローガン達成に向けて自分たちがすべき具体的姿や行動目標等を述べてくれるなど、生徒のみなさんの真剣な表情が見られました。

生徒会活動は、生徒のみなさんの学校生活をよりよく充実したものにするための活動です。ですから、大切なのは生徒会活動は生徒会拡大執行部だけの活動ではないということです。

生徒のみなさんの応援なしでは進まないし、生徒のみなさんの生徒会活動に対する理解と協力が活動を活発にさせるのです。ぜひ、小郡中学校の生徒であるという自覚と責任をもち、役割を果たせる人、誰かの役に立てる行動ができる人になってくれることを期待しています。

生徒会スローガンは【飛躍 ～さらなる一步を～】です。仲間の想いと向き合いながら、質の高い信頼関係を築いていこうという思いが込められています。小郡中学校の伝統のさらなる発展と全員が安全で安心して生活できる学校を全員でつくってほしいものです。

生徒会拡大執行部のみなさん、短い期間での生徒総会の準備、本当にお疲れさまでした。これからのみなさんの粘り強いとりくみに期待しています。



## 1, 2年生 お別れ合唱会がありました

3月19日(火)に1, 2年生のお別れ合唱会がありました。今の学級での仲間との生活を振り返るとともに、次年度に向けての決意を確認する会でもあります。学級目標は達成できたでしょうか。自分も友も伸ばすことができたでしょうか。そして、次年度、自分はどのようなことをしなければならぬのか、など自分の考えを整理する時間にもなったと思います。

